

2021年7月28日
東京ガス株式会社

2021年度（2022年3月期）第1四半期決算発表説明会

Q&A

Q1：今回見通しにおける、海外セグメント+100億円の内訳について教えて欲しい。

A1：主に、豪州上流プロジェクトにおける原油価格上昇等による数十億円の半ば程度の増益、及び、北米上流事業における年初の寒波によるガス価格上昇等による数十億円の半ば程度の増益によるものである。

Q2：株主還元政策見直しの検討状況について教えて欲しい。

A2：4月の決算発表にお伝えした通り、6月の株主総会での指名委員会等設置会社への移行を経て、新体制下において、秋以降早いタイミングでアナウンスできるよう検討中である。

Q3：今年度第1四半期決算から適用された「収益認識基準会計基準」による影響について、決算短信において▲574百万円の利益減少となっているが、どのセグメントにおける影響か。

A3：「収益認識基準に関する会計基準」の適用による利益影響は、いくつかのセグメントにわたり発生しているが、▲574百万円の大部分が電力セグメントにおける影響である。なお、前年度は「収益認識会計基準」を適用していないため、前年度実績との比較においては留意が必要である。また、都市ガス事業については、従来通り検針日基準による収益認識を行っているため影響はない。

通期見通しについては、4月発表時の見通しに「収益認識会計基準」の利益影響をすでに織り込んでおり、今回見通しにおける影響はない。

以上